

や  
まさき

伝統芸能で地域に元気を!!

西町獅子舞保存会の子ども獅子舞

西町獅子舞保存会では、毎年10月に山崎八幡神社へ奉納する獅子舞と獅子屋台を復活させてから、今年で28年になります。

本家門前屋酒店さんの蔵で50年以上眠っていた、獅子屋台と獅子頭が発見された事がきっかけとなり、「立派な獅子屋台がもったいない」「地域で守っていこう」と活動が始まりました。

最年少は3歳。幼稚園の年少から中学校3年までの約50名が中心に舞を披露します。



力強い奉納獅子舞



獅子屋台は文久元年(1861年)に造られた貴重な文化遺産です



奉納秋まつり当日は約150名の方が参加されます

再開当初、地域で獅子舞に詳しい方に習った皆さんが、今は子どもたちを指導し、着付けやお囃子など、地域の方や父兄もたくさん参加されています。

また、依頼があれば市内の施設訪問やイベントにも参加し、元気な獅子舞が、活力と賑わいを与えてくれます。

地域の伝統芸能をとおして、世代を超え地域のつながりを強める活動になっています。

(山崎支部 森井裕矢)

い  
ちのみや

伊和高校防災学習会

黙々と取り組む生徒の姿に感動

12月1日(水)、伊和高校体育館にて防災学習会が開催されました。開催テーマは「平成21年台風9号豪雨災害に学ぶ」。

ミニフォーラムでは、被災・ボランティアそれぞれ立場からお話いただきました。

安積盛久さん(曲里前自治会長)は、「あの日のことは忘れられません。」「助けていただいたみなさん、本当にありがとうございます。」「と、被災者代表として感謝の気持ちを伝えました。

また、長井麻衣さん(2年)と谷口真一さん(3年)は、「当たり前の大切さを感じた。」「災害をほつとけない思いがあった。」「と当時の体験や活動をそれぞれ振り返りました。

印象的だったのは、「自分から率先して黙々と取り組む生徒の姿に感動しました。」「と話された大西信輔教諭の言葉でした。



伊和高校校舎やグラウンドも大きな被害に。教員、生徒で復旧活動にあたりました



【右から】ボランティア体験者：大西信輔さん(伊和高校教員)、谷口真一さん(伊和高校3年)、長井麻衣さん(伊和高校2年) 被災体験者：安積盛久さん(曲里前自治会長) 進行役：波多野好則(粟粟市社協)

豪雨災害から一年余りが経ちましたが、今回の学習会が、災害について改めて考える機会として意味のある取組みとなりました。

(本部・一宮支部 波多野好則)